

第 57 回全国学童保育研究集会（20221029~20221030）レポート

【クラブ】（ たけのこクラブ ）

【名 前】（ 岩井 里真 ）

① 2 日目に参加した分科会のタイトルをお書きください。

第（2-③）分科会 （ 学童保育の生活とあそび ）

※全体会のみに参加の場合は、全体会の記念講演のタイトルをお書きください。

② この分科会を選んだ理由をお書きください。

1 年間学童に携わり、学童での生活を通して子ども達が一番時間を費やしていることがあそびということが分かりそのあそびの中で子ども達は様々なことを学んでいるということが分かった上で改めて、子ども達にとって学童とはどんなところなのか、その中でのあそびとはどんな思いで行われているのか知りたいと思ったので受講しました。

③2 日間の全体会と分科会で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

午前のレポート発表では、福島県福島市にある“清明っ子クラブ”の子ども達のあそびについてレポート発表をしていただきました。午後からはグループワークで4つのテーマについて話し合いをしました。テーマはテーマ①「異年齢同士があそびやすい学童ルール」テーマ②「あそびで大切にしていること」テーマ③「子ども同士をつなげる指導員の関わり」テーマ④「やることなくつまらないという子に対して」でした。一日を通して、子どもの人数や施設の大きさ、周りの環境等様々な規模の学童や指導員の年数の違いから同じ遊びでも、多種多様なあそび方や学童の暮らしの在り方があることを知ることができました。

特に、テーマ①の学童ルールについての話し合いは、私にとって難しく感じました。大規模クラブでは様々なあそびのルールがあり、異学年と一緒に楽しく遊べるよう工夫されていることがおおくあり、小規模クラブでは逆にルールはあるもののその都度遊びに参加する子どもの年齢や人数に合わせてルールが変わることが多く、なかなかこれといった学童ルールが見当たりませんでした。もしくは、その学童ルールが日常の当たり前になりすぎていて学童ルールと私自身が気付いていないのかもしれませんが難しいテーマだったと感じました。そして、最後に『子ども達にとってあそびは生活の中心である』というキーワードに深く考えさせられました。私自身仕事として子ども達と遊んでいたり、遊びを提供していたりしましたが、子ども達にとってあそぶことそのものが生活の一部であり、『あそび』ということが生活から切り離されていないので友達や指導員と話すこともあそびの一部なのだを知り、子ども達とのかかわり方を改めて考える良い時間となりました。

※提出されたレポートは、当会の広報誌やホームページに掲載する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※×切は、11月13日（日）です。常勤・専任指導員に手渡し、または FAX：0564-32-0325 までお送りください。